

試験研究成果普及情報

部門	特用林産	対象	普及
課題名：菌床シイタケの栽培形態ときのご害虫の発生			
<p>[要約] 本県の菌床シイタケ栽培施設は、簡易型が全体の 80% を占める。その簡易型栽培施設できのご害虫の発生が多発し、その種類はクロバネキノコバエ類、ヒメガガンボ類、ナガマドキノコバエ、ムラサキアツバであった。最も被害が大きい害虫はナガマドキノコバエで、幼虫が子実体の発生とともにひだに移動し、商品価値を大きく損ねる。</p>			
キーワード：菌床シイタケ、きのご害虫、簡易型栽培、ナガマドキノコバエ			
実施機関名 主 査 農林総合研究センター森林研究所 協力機関 各農林振興センター（全域）			
実施期間 2007年度～2008年度			

[目的及び背景]

食用きのご栽培において、周年栽培の増加や経営規模の拡大に伴い、新たな虫害の発生が問題化している。原木栽培から菌床栽培へと栽培方法が分化する中で、増加してきた菌床シイタケ栽培においても栽培の障害となるきのご害虫が目立っている。安定的な生産を行うためには、栽培施設における虫害の実態を把握し、被害防止技術を確立することが必要である。そこで、千葉県内の栽培施設において被害対策が必要な害虫を調査し、栽培施設及び栽培方法との関係を明らかにする。

[成果内容]

1 千葉県における菌床シイタケの栽培形態の特徴

- (1) 栽培施設として空調施設型と簡易型、水分管理・発茸方法として浸水型と散水型及び全面栽培と上面栽培、栽培期間として周年型と季節型とに大別される。
- (2) 栽培施設は簡易型が全体の 80% であり、水分管理・発茸方法では散水型が全体の 81%、全面栽培が全体の 80% である。栽培期間では、周年栽培が全体の 68% である。

2 栽培方法ときのご害虫の発生

- (1) 栽培施設では、浸水型と散水型、全面栽培と上面栽培に関わらず簡易型できのご害虫が多発しており、その種類はクロバネキノコバエ類、ヒメガガンボ類、ナガマドキノコバエ、ムラサキアツバである（表 1）。
- (2) 最も被害が大きい害虫は、ナガマドキノコバエであり（写真 1、2）、菌床上を徘徊している幼虫が子実体の発生とともに子実体のひだに移動し、商品価値を著しく損ねる。被害低減のため、誘殺器の使用による成虫の捕獲や、幼虫の捕殺を行う。

[留意事項]

- 1 簡易型栽培施設では、特に害虫が多発することを生産者に啓発する。
- 2 ナガマドキノコバエの識別ポイントについては、（独）森林総合研究所が普及啓発用リーフレットを発行しているので活用する。

[普及対象地域] 県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 菌床シイタケの栽培方法ときのご害虫の発生

No.	栽培方法				調査地	発生したきのご害虫			備考
	栽培施設	水分管理	発菌方法	周年・季節		クロバネヒメガガンボ	ナガマド	ショウジョウアツバ	
1	簡易	浸水	全面	周年	流山市				平成6年10月調査
2					佐倉市				
3					富里市				
4					山武郡蓮沼村				
5					木更津市(1)				
6					袖ヶ浦市				
7	簡易	浸水	全面	季節	茂原市(1)				
8	簡易	散水	上面	周年	香取郡多古町				
9					南房総市				
10					木更津市(2)				
11	空調	浸水	全面	周年	茂原市(2)				
12	空調	散水	上面	周年	鴨川市				

(注) クロバネ：クロバネキノコバエ類 ヒメガガンボ：ヒメガガンボ類
 ナガマド：ナガマドキノコバエ ショウジョウ：ショウジョウバエ類 アツバ：ムラサキアツバ



写真1 ナガマドキノコバエ成虫
 成虫は体長6～10mm、黄色の体色で、背中に黒色の線が見られる。

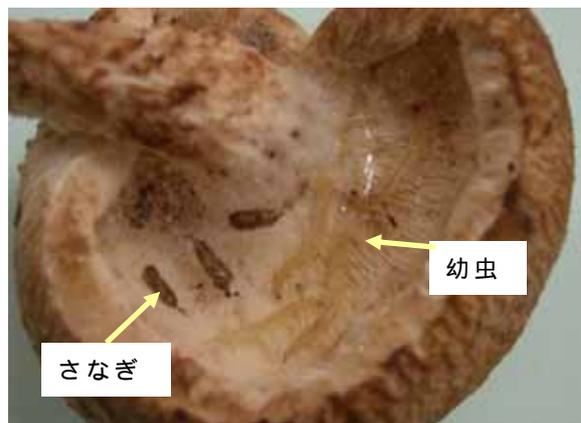


写真2 ナガマドキノコバエ幼虫とさなぎ
 幼虫は透明～半透明で細長い。粘着性の糸をはく。さなぎは、こげ茶色。

[発表及び関連文献]

- 1 平成20年度試験研究成果発表会(林業部門)
- 2 千葉県におけるオオキバネヒメガガンボの発生と防除試験、48回日林関東支論、83～84、1996年
- 2 千葉県における菌床シイタケの栽培形態と確認されたきのご害虫、関東森林研究60(投稿中)
- 3 菌床シイタケ生産施設におけるツクリタケクロバネキノコバエの被害() - 菌床表面での成虫・幼虫の徘徊と子実体の被害、46回日林関東支論、137～138、1995年
- 4 岩澤勝巳：菌床シイタケ生産施設に発生したナガマドキノコバエとオオショウジョウバエの捕獲試験、50回日林関東支論、167～168、1999年

[その他]